

●【話題を追って1】伝承活動調査報告書の公開

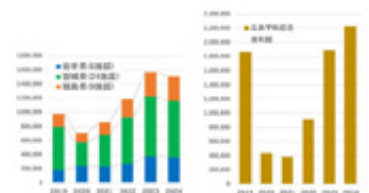
3.11メモリアルネットワーク 伝承活動調査報告書をWeb公開 東日本大震災発災から14年9カ月。15年を迎える東北の震災伝承概況を冊子化



2024年東日本大震災伝承活動調査報告書
(画像クリックで拡大表示／以下同様)



東日本大震災発災から14年間の震災伝承団体、伝承施設の数と来訪数の推移



広島平和記念資料館と東北伝承施設の来館数比較。広島市の平和記念資料館(原爆資料館)の来訪数は、2024年にはコロナ禍前よりも増加し220万人に達している一方で、東北の伝承施設39施設(閉館含む)の来訪数は2023年から2024年に減少に転じており、広島市平和記念資料館1館の来館数より少ないのが現状

公益社団法人3.11メモリアルネットワークは、2017年から毎年、東日本大震災の震災伝承活動調査を実施している。このほど、「2024年震災伝承活動調査報告書」の冊子をWEB公開した。すでに同法人WEBサイトに公開している第1弾、第2弾の調査内容に追加回答を加え、復興基本方針の変遷や、発災から14年間の各伝承団体・伝承施設数と来訪数推移フェーズ整理、各団体・施設の年別・月別来訪数グラフなどを冊子(本文148ページ)の形にまとめ、WEBサイトに公開したもの。

【2024年東日本大震災伝承活動調査報告書】

発行者:公益社団法人3.11メモリアルネットワーク

協力:東北大学災害科学国際研究所 佐藤翔輔准教授

研究支援:一般財団法人みちのく創生支援機構

>>掲載サイト:<https://311mn.org/info76>

【目次】

・はじめに／1. 2024年東日本大震災震災伝承活動調査報告書の概要／2. 東日本大震災の伝承に関わる方針と現状／3. 震災学習プログラム、震災伝承視察への来訪数推移／4. 震災伝承活動の現状・課題／5. 持続可能な震災伝承活動に向けて／6. 震災伝承活動の可能性／7. おわりに

・巻末資料1. 各震災学習プログラム提供団体の基本情報・来訪数推移／巻末資料2. 各震災伝承施設の基本情報・来館者数推移／巻末資料3. 参考文献

【掲載情報例】

・発災から14年間の震災伝承団体、伝承施設の数と来訪数の推移

これまでの15年近くの震災伝承活動の推移を4つのフェーズ分けて整理

・復興基本方針における教訓継承事業の位置づけ

2011年5月の復興構想7原則で掲げられた「教訓を次世代に伝承」が、本年までに復興庁でどのように位置づけられ、予算化されてきたかを整理

いっぽう、「伝承活動を継続する上での不安」として、震災学習プログラム提供団体の96%、震災伝承施設の69%が今後の伝承活動の継続に不安を感じていること。「後世への伝承継続のために、特に重要と思う人材」については、伝承団体・伝承施設共に「語り部」が最多の回答であることなどを掲載。

3.11メモリアルネットワークは、同調査報告書を紙の冊子としても発行し、調査に協力してもらった震災伝承団体や施設と共有するほか、震災伝承に関心を持つ防災機関、研究者、メディア等にも閲覧してほしいとしている。

>>3.11メモリアルネットワーク:東日本大震災伝承活動調査報告書をWEB公開

BOSAI+ Topics



「能登の創造的復興を考える」シンポジウム

開催日時:2026年1月15日 17:00~

会場:石川県庁記念しいのき館 ガーデンルーム

● 能登半島地震から2年

「創造的復興」をテーマにシンポジウムと被災地視察ツアーを開催

一般社団法人リノベーション協議会(東京都中央区)は、能登半島地震から2年を迎える2026年1月15日・16日の2日間、能登の創造的復興を考えるシンポジウムと現地視察ツアーを開催する。この取組みは、全国の建築・不動産・まちづくり関係者とともに、「地域資源を活かした持続可能な復興のあり方」と「災害に強いまちづくり」を考えることが目的。公費による解体は補助金の対象となるが、被災した建物の保存・修復には補助がなく、地域への負担が大きくなっているのが現状。

イベントを通じて、古い街並みや建物の保存と復興の両立の可能性、創造的復興について、参加者と共に考える機会とする。

>>リノベーション協議会:能登半島地震2年、シンポジウムと被災地視察ツアー